

学校評価

— 文部科学省「学校評価ガイドライン」より —



文部科学省

学校評価はなぜ必要か？

教育の質の 保証・向上

教育委員会などが学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の必要な措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ります。



学校運営 の改善

目指すべき成果とそれに向けた取組について、目標を設定し、その達成状況を把握・整理し、取組の適切さを検証することにより、組織的・継続的に学校運営を改善します。

信頼される 開かれた 学校づくり

自己評価及び外部評価の実施とその結果の説明・公表により、保護者、地域住民から学校運営に対する理解と参画、協力を得て、信頼される開かれた学校づくりを進めます。



学校評価のメリットの例

「教育活動の改善」

- ◆ 保護者のアンケートから、学力向上への要望が強いことがわかり、学力の実態をもとに教科の特性を生かした授業改善の方策づくりや、読み・書き・計算に関する学校全体の系統的な取組を見直すことができた。
- ◆ 児童のアンケートから、自然体験や宿泊体験など体験活動への期待度が高いことがわかり、学校行事を重点化するなどの判断材料となった。



「教職員の意識改革」

- ◆ 生徒による授業評価から、授業への満足度が低いことがわかり、授業力向上に向けた研修の必要性を感じ、より積極的な授業公開や授業方法に関わる実践の交流を進めた。
- ◆ 外部評価者の意見を聞いて、本校のよさや今後取り組むべき課題、教職員としての使命についてのヒントが得られた。このため、本校の課題であるキャリア教育に関わる学習会や、教員の意識改革に関する意見交換を行うこととした。



「保護者や地域住民の学校への協力」

- ◆ アンケート、PTAや学校評議員会の会合などを通して、保護者や地域住民が、学校教育活動や学校運営に関し、気軽に声を寄せるようになった。
- ◆ 学校の取組の報告や学校評価の結果の公表をきっかけに、保護者や地域住民が、学校に協力しようとする気運が高まり、学校ボランティアの試みが始まった。

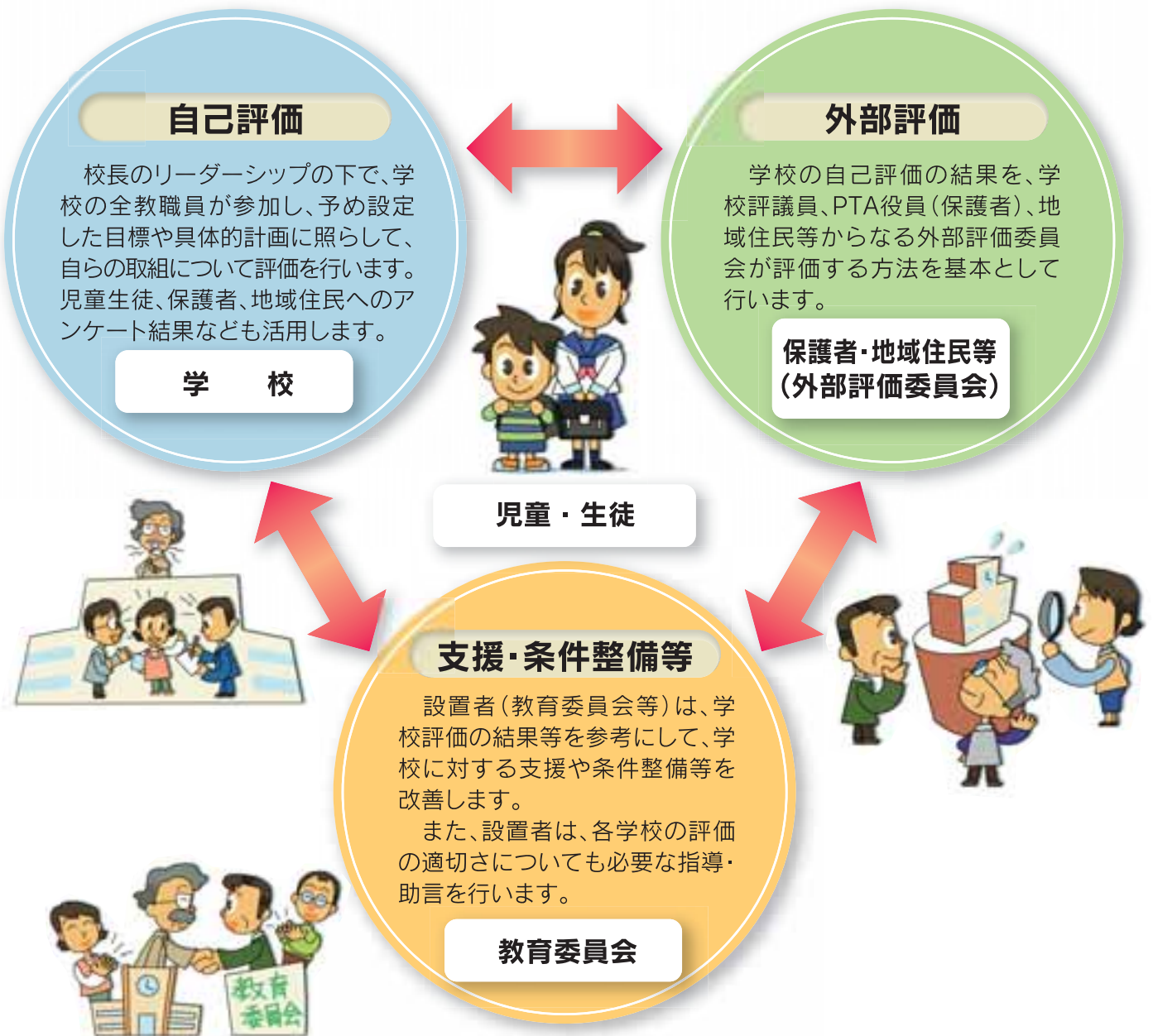


「教育委員会による支援の充実」

- ◆ 教育委員会は、学校評価を通して、学校の目標、取組、成果と課題を把握し、人事や予算面でタイムリーに必要な支援を行うことができた。
- ◆ 学校評価によって明らかになった教育課題の解決や、より質の充実した授業づくりのために、指導主事による校内研修の指導・助言を行った。



学校評価の方法



第三者評価について

大学や教育研究機関の職員、学識経験者等、当該学校に直接関わりをもたない専門家が客観的に学校を評価することを「第三者評価」と呼びます。この「第三者評価」の在り方について、我が国でも研究、検討を進めます。

なお、イギリスなど全国的な第三者評価の仕組みが導入されている国や、すでに日本で先進的に取り組んでいる地方自治体もあります。